

財団法人かめのり財団
青少年交流事業
2006年度～2009年度の助成事業・プロジェクト

2006年度 助成事業・プロジェクト

バレーボール・モンリオール会 ネパール・ダマク難民キャンプ支援プロジェクトへの助成

このプロジェクトは、NPO法人バレーボール・モンリオール会が、早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンターと共同で実施、ネパール南東部にあるダマク難民キャンプを訪問し、ブータン難民へバレーボールの指導支援および交流をおこなうものです。難民キャンプには多くの青少年が生活しており、将来の不安を抱え精神的に不安定な日々を送っています。このプロジェクトはスポーツの楽しさをひろめ生活の希望を与えるものであり、また早稲田大学ボランティアセンターの学生の参加によって日本の若者がスポーツを通して現地で青少年と交流するという有意義な活動と考えられ、かめのり財団は、プロジェクトの趣旨に賛同し、実施のための活動資金を助成しました。

2007年4月1日から4月10日の日程で実施され、バレーボール・モンリオール会のメンバーと早稲田大学ボランティアセンターの学生がダマク難民キャンプへ赴き、全7キャンプから約180人の男女が集まり2日間のバレーボール教室とその後、大会が催されました。バレーボール教室のほかに、日本全国から集まったネットやボール、シューズ、Tシャツなどのスポーツ用具も贈られました。

現地での活動の詳細は、NPO法人バレーボール・モンリオール会ホームページをご覧ください。

MoPI 黒板プロジェクトへの助成

NPO法人モンゴルパートナーシップ研究所(通称 MoPI=モピ)の「黒板プロジェクト」の趣旨に賛同し、草原で生活する子どもたちの学校に黒板を贈ります。

2006年度は黒板10枚分を助成しました。

2006年夏、財団名「The KAMENORI Foundation Tokyo, Japan 2006.8」のプレートをつけた黒板が現地の小学校へ届けられました。ウランバートル市の南西に隣接する「ゴビスンベル・アイマグ県」にある5校へ2枚ずつ寄贈されました。草原で生活する子どもたちが、これらの黒板をとおしてより多くを学んでいくことを願っています。

今後もモンゴルの草原の小学校へ1枚でも多くの黒板を贈りたいと考えており、来年度以降も継続して助成していく計画です。



2007年度 助成事業・プロジェクト

MoPI 黒板プロジェクトへの助成

NPO 法人モンゴルパートナーシップ研究所(通称 MoPI=モピ)の「黒板プロジェクト」の趣旨に賛同し、草原で生活する子どもたちの学校に黒板を贈ります。

2006 年度に引き続き、2007 年度は黒板 20 枚分を助成しました。

2007 年 9 月に、昨年同様に「The KAMENORI Foundation TOKYO. JAPAN 2007.9」のプレートをつけた黒板が現地の小学校へ届けられました。

今年度は、モンゴルの北に位置するダルハン・オール県にある 10 校に 2 枚ずつ寄贈されました。

MoPI の報告によると、2007 年度の配布で、ウランバートルに近い学校を除くモンゴル全土の学校に、黒板がいきわたったそうです。かめのり財団として、わずかではありますが、MoPI の黒板プロジェクトにかかわれたことを嬉しく思います。来年度以降も継続して黒板への助成を計画しています。

ネパールダマクキャンプ支援プロジェクト パネル写真展への助成

2006 年度かめのり財団助成の「ネパール・ダマク難民キャンプ支援プロジェクト」(NPO 法人パレーポールモントリオール会・早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター共催)に同行したフォート・キシモトのフォトグラファーによるパネル写真展「もうひとつの金メダル」が 2007 年 6 月 15 日から 7 月 13 日まで国連大学にて開催されることになりました。かめのり財団はこのプロジェクトが成功をおさめたとの報告を受け、この意義深い活動を広く知らせる写真展の趣旨に賛同し、支援プロジェクトに引き続いて写真展開催に助成しました。

写真展では難民キャンプで指導にあたるメダリストたちの真剣な表情や一緒に楽しむ笑顔、真剣になって指導を受け、試合にのぞむ難民たちや現地の人々、日本からの訪問者を困む難民の子供たち、そして別れを惜しむ様子などが写し出されています。多くの方々にネパールでの難民との交流の様子が伝わることを願っています。



パネル写真展「もうひとつの金メダル」

2007 年 6 月 15 日～7 月 13 日

国連大学ビル 2 階ギャラリーにて



2008年度 助成事業・プロジェクト

アジアンスポーツフェスタ 2008 in Yokohama への助成

NPO 法人モンテリオール・バレーボール会が主催するこの事業は、主に神奈川県立横浜国際高校の生徒、早稲田大学ボランティアセンターの学生がボランティアで企画運営に携わり、関東地域、特に神奈川県に在住するアジアの青少年と日本の高校生・大学生が、バレーボール大会を通じて交流することを目的に2008年12月21日(日)に開催。日本と他のアジアの国の青少年がスポーツ交流をきっかけに、それぞれの国について知るよい機会になると考え、かめのり財団は趣旨に賛同し助成しました。当日は、ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、中国など約120人の参加者が集まり、ゲストとして体操の田中光さんや、一輪車の安藤勇太さんのパフォーマンスもまじえながら、金メダリストのみなさんによるソフトバレーのサーブやレシーブなど基本技術の指導のあと、チームに分かれて試合を行いました。けが人もでることなく、参加者のみなさんが大変盛り上がり、無事、終了しました。

Asian Sports Festa 2008 Let's play together!

日程：2008年12月21日(日) 10時から15時

場所：神奈川県立横浜国際高校 体育館



カンボジア名古屋大大学院留学生・名古屋大日本法センター学生支援事業への助成

カンボジアの法制度整備に尽力している日本カンボジア法律家の会が支援するこの事業は、カンボジア首都プノンペンで初めて行われる比較法研究会に名古屋大学法律分野のカンボジア留学生が参加し、カンボジア王立法経大学内の名古屋大学日本法センター学生と交流するものです。

日本で法律分野を学んでいるカンボジアの学生が母国での法研究会を通じて、王立法経大名大日本法センターの学生と交流することで、双方の研究・学習意欲を高めるだけでなく、日本の法律はもちろん文化や生活についても生きた情報を伝えるよい機会となります。

カンボジアの学生が日本語習得意欲、文化・習慣の知識を深めることに大きくつながる事業と考え、助成しました。

2008年度 助成事業・プロジェクト

中国・清華大学講演及び文化交流事業に関する助成

中国青年出版社(中国北京)では、文化庁長官青木保氏の著書の翻訳出版を機に交流事業を企画。中国での当財団の活動趣旨を広め、日中の相互理解がさらに深まる事業であると期待し助成しました。現在、中国では日中青少年交流を考える上で、共通認識の基本となる異文化理解から模索し、新時代における日中青少年交流を目指す地道な可能性を開拓しています。

本事業は、共通認識のベースを整えるためのテキストとして、文化庁長官青木保氏の『異文化理解』(2001・岩波新書)と『多文化社会』(2003・岩波新書)の2冊を選び、中国青年出版社より中国語版を発刊しました。これにあわせ、清華大学では東アジア相互理解を目的とする法政大学教授、王敏氏の講演会 - 「温故創新・中日文化の現在と未来 - 異文化理解を中心に」 - を開催し、翻訳書籍を中国政府、関係機関および中国における日本研究にあたる大学や研究機関へ寄贈しました。



MoPI 黒板プロジェクトへの助成

NPO 法人モンゴルパートナーシップ研究所(通称 MoPI=モピ)の「黒板プロジェクト」の趣旨に賛同し、草原で生活する子どもたちの学校に黒板を贈ります。

2006年度から継続して助成し、3年目である2008年度は黒板20枚分を助成しました。この3年間で50枚の黒板を贈ることができました。

2008年9月、今回も「KAMENORI Foundation, Tokyo. JAPAN」のプレートをつけていただいた20枚の黒板が、MoPIの現地スタッフによりモンゴル北部に位置するセレンゲ・アイマグ県の11校へ届けられました。

MoPIからの報告によると、2008年度は162枚の黒板を配り、2002年～2008年までに、21県・465校に、1179枚もの黒板を配布したそうです。わずかではありますが、モンゴルの子どもの笑顔の広がる黒板プロジェクトに協力できたことを嬉しく思います。



2009年度 助成事業・プロジェクト

MoPI 黒板プロジェクト

NPO 法人モンゴルパートナーシップ研究所(通称 MoPI=モピ)の「黒板プロジェクト」の趣旨に賛同し、草原で生活する子どもたちの学校に黒板を贈ります。

2006 年度より継続して助成し、本年度は黒板 10 枚を助成。2009 年 8 月、10 枚の黒板は、オルホン県にある 5 つの学校に届けられました。

MoPI の黒板プロジェクトは 2009 年度で 8 年目を迎え、これまでに配布した黒板はモンゴルの 21 県 604 校、1312 枚になりました。2010 年度は、過疎化している地域と人口が流入してきている中央部とに約 200 枚の配布を計画。配布 10 年目には、全国すべての学校に 4 枚ずつとなる 400 枚の配布を目標にしています。

本財団では 4 年間で、60 枚の黒板を贈り、わずかではありますが、モンゴルの子どもたちがきれいな黒板を前に笑顔で学習に取り組める環境作りに支援できたことを嬉しく思います。



日中青年会議

ユナイテッド・ワールド・カレッジ(UWC)香港校主催で、UWC の在校生および卒業生による運営で行われるこの会議は、若い世代が日中の歴史などについて議論、発表を行うもので、若い世代が日中関係について積極的に話し合い、お互いを知るよい機会となると考え、助成しました。

2009 年 8 月 11 日～19 日の 9 日間のサマープログラムで、日中の中高生各 24 名、実行委員などを含め約 70 名が集まりました。初めは自己紹介やゲームで信頼関係を築き、経済、環境、歴史などを話し合い、発表を行いました。また広東省への旅行では地元の人と交流し、終戦記念日には親戚から聞いた日中両国の戦争体験を共有しました。参加者からは「異文化交流の大切さ。お互いに話し仲良くなることで、初めてお互いを知ることができる。」という感想などがあり、多くの方からの支援のもと成功裏に終了しました。

(ユナイテッド・ワールド・カレッジ:世界 80 カ国以上から高校生が生活を共にし、文化や考え方の違いを超えて友情を育み、平和と持続可能な未来を目指した教育を行っている)



2009年度 助成事業・プロジェクト

Global Model United Nations 日本代表派遣プログラム

このプログラムは、2009年8月2日～8日にスイス・ジュネーブで開催する世界初となる国連主催の模擬国連世界大会に日本代表として5名の学生を派遣し、世界各地から集まる学生と模擬国連会議(GMUN)の中で交流し、世界の貧困削減を中心としてミレニアム開発目標についての議論を通して、世界的な問題への見識を深め、そこで得た知見を日本国内の学生に還元することを目的としています。

GMUNには世界56カ国800人の参加者の中で、アジアは日本からの5名を含む12カ国104人が参加。日本を含むアジア圏の学生が一堂に会し、世界の課題を議論するという貴重な機会ともなることから、趣旨に賛同し、助成しました。

今後、5名の参加者は、この会議を日本社会に広め、日本の学生たちにGMUNへ向けて勉強したこと、現地で得た経験を還元する活動をしていきます。



香港中文大学連合書院 - 早稲田大学学術交流プログラム

このプログラムは、香港中文大学連合書院と早稲田大学の学部生を選抜し、お互いに共同生活・研究あるいは異文化体験や国際交流を通じて、将来日本とアジアの架け橋となるような広い視野を持った国際舞台で活躍できる人材を養成することを目的としており、かめのり財団の理念に合うものと考え、助成しました。

2010年2月15日～21日まで、香港中文大学連合書院の学生が来日し、また3月20日～27日まで、早稲田大学の学生が中文大学を訪ね、「Internationalization in Higher Education : Myth and Reality」(「高等教育の国際化：神話と現実」)を共同研究テーマに、日本と香港における高等教育の国際化についてそれぞれの大学の事例も含め、考察しその成果を発表します